

H21年度共同講義「久留米の生活と環境」

開講日時	講師	演題	講義内容	会場
10月6日(火)	藤田 八暉 (久留米大学経済学部教授)	地球環境問題と温暖化防止対策	21世紀の最大の課題となっている地球環境問題について、その要点を概説したうえで、特に地球温暖化問題について、温暖化防止のための国際的な取組の経緯とわが国の取組の状況について解説する。	六ツ門大学
10月9日(金)	河内 俊英 (久留米大学医学部准教授)	久留米市の地域福祉	環境問題を考えるときに廃棄物を無視できませんが、資源化や再利用すると、驚くほど削減できます。方法や理由を一緒に考えましょう。	
10月13日(火)	河内 俊英 (久留米大学医学部准教授)	循環社会をめざして廃棄物問題を考える	飲み水は、河川水に依存していることから、川の状態が「安全性やおいしさ」に関係します。その実情と将来について紹介します。	
10月20日(火)	西野 雅広 (久留米市環境部環境保全室長)	久留米周辺の河川環境と飲み水	環境（公害）行政の変遷や、大気汚染や水質汚濁等の環境データの変化を解説します。そして、私たちができる環境問題への取り組みについても考えてみましょう。	リリウム
10月23日(金)	白水 麻子 (聖マリア学院大学看護学部講師)	久留米市の環境（公害）行政	生活環境を整備することで健康で快適な環境を作り上げることができます。日常生活と環境との関係について取り上げ、よりよい日常生活の提案を行っていきたくと思っています。	
10月27日(火)	笈木 宏和 (久留米工業高等専門学校生物応用化学科准教授)	生活環境と環境問題	家庭排水の浄化処理から資源の再利用まで、微生物を用いた処理技術を学ぶ。	
11月6日(金)	川口 武実 (久留米工業高等専門学校制御情報工学科教授)	微生物を用いた環境汚染対策	冬の季節風「背振おろし」を風力発電に利用できないか。風力発電の現状と課題を取り上げます。	
11月24日(火)	江越 和夫 (久留米信愛女学院短期大学健康栄養学科教授)	「背振おろし」と風力発電	安全な食生活を送るためには、食の安全を脅かすものを知ることが必要です。本講義では、食中毒・ノロウイルス・食品添加物・農薬・プリオン・ダイオキシン・食品不祥事等について概説します。	
11月27日(金)	大森 洋子 (久留米工業大学工学部建築・設備工学科教授)	食の安全	人々の営みが作り出してきた文化は、今後も地域で継承すべき文化遺産です。身近な文化遺産に気づき、これを生かしたまちづくりが地域の誇りを育てます。	

12月1日(火)	佐塚 秀人 (久留米工業大学工学部 情報ネットワーク工学科講師)	地域コミュニティとネットワーク	地域コミュニティにおけるインターネット利用スタイルの変化と地域に根付くICT活用の事例紹介	リリウム
12月4日(金)	岡部 千鶴 (久留米信愛女学院短期大学ビジネスキャリア学科教授)	久留米市の女性を取り巻く生活環境	久留米市の男女平等政策は全国でも有数の水準です。ひとり親家庭やDV被害女性への支援策を例に久留米市の取組みを学び、さらなる男女共同参画社会実現に向けて共に考えましょう。	
12月11日(金)	萩尾 ミドリ (久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科講師)	今、保育所・保育園に求められているもの	子どもや子育て家庭を取り巻く環境の変化により保育所に対する期待と役割が高まっている保育の現状について解説します。	
12月15日(火)	竹元 仁美 (聖マリア学院大学看護学部准教授)	家族を看(み)る	家族の誰かが病気になった時、他の家族メンバーの身体的・心理社会的健康も傷害されます。家族の問題解決力を高め、健康を保つためのケアについて一緒に考えてみませんか。	
12月18日(金)	石橋 カズヨ (聖マリア学院大学看護学部准教授)	自殺問題と救急医療	我が国における自殺者数は、11年間、連続3万人を超えている。データは自殺完遂者に関するものであるが、完遂に至らない人々へのケアも大切です。福岡県や久留米市のデータもひも解きながら救急医療や教育現場の課題について共に考えましょう。	
12月22日(火)	山本 耕之 (久留米工業大学工学部 環境共生工学科准教授)	日常生活でも関節痛は起こる	体の関節は重量挙げ程度の力を日々支えている。これが高齢では障害となり痛みとなる。	